

現代社会学科における教員養成に対する理念等

教員養成に対する理念・構想・教員像

【現代社会学科】

現代社会学部現代社会学科では、「教育研究上の目的（理念・目的）」の冒頭に、「現代社会に生起する諸課題」（社会的排除、社会的孤立、格差の拡大、個人化する家族、グローバル化等）に「果敢に挑戦し、その克服のために尽力する人材」を養成すべく、「社会学、心理学、文化人類学、社会福祉学などの多彩な学類が連携」することが掲げられている。本学部のカリキュラムにおいては、「社会調査入門」、「コミュニケーション・スキル」、「キャリア・デザイン」などの入門科目だけでなく、「社会調査実習」、「キャリア構想ケーススタディ」などのように実際に社会に出て社会調査を実践するための応用科目を配置することで、社会調査から得られる確かな根拠に基づいた知識や判断の重要性を理解することを学科教育の基本に据えている。同時に「地域社会学」、「地域メディアの社会学」のような地域社会に根差した科目と、「社会構想学」や「労働とグローバル化の社会学」のような全体社会を大きく捉える科目の両者により、社会を「虫の目」（ミクロな視点）と「鳥の目」（マクロな視点）の複眼的視点をもって認識しようとする点に大きな特色がある。さらに、現代社会を構成する幅広い専門分野に対応するため、社会学、コミュニティ学、社会福祉学、国際文化の4つの分野を設定し、卒業後は各種職業分野において、「的確な方向づけを行うための分析力、そのための理論的基礎、さらには個々の課題に対する具体的方策を提示し、実践していく力を備え、社会の一員として活動し、社会の中核的存在になる人材」の養成を目指し、そうした学科特性を生かす上で有力な職業分野の1つとして学校教員を想定している。

平成29年に改訂された中学校学習指導要領には、中学校社会科の目標として「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することが掲げられている。また、平成30年改訂された高等学校公民科の学習指導要領においては、「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す」ことが目標として記されている。このように、中等教育における社会科・公民科の目標は、現代社会に対する問題意識を観察・調査にまでつなげて実践できる教育を通じて「現代社会の構造を理解し、めざすべき社会を構想する人材」を育成することで、中等教育段階の教員養成を目指そうとする本学科学士課程の達成目標と深く共通するものである。

また、平成29年に告示された中学校学習指導要領解説の文言をみると、「社会科改訂の趣旨及び要点」のうち「改訂の趣旨」においては、社会科が取り組むべき「課題」として、ア）「基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得」、イ）「「社

会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成」、ウ)「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が掲げられている。これらには、本学科の学習成果達成目標である「専門的知識とそれを背景とした調査力・実践力・表現力」を備え、「現代社会の構造を理解し、めざすべき社会を構想する」ことが対応している。つまり、まさしく「現代社会の構造を理解し、めざすべき社会を構想する」者であってこそ、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や探求する力」を指導する資格が開かれると考えられるわけである。

教職課程の設置趣旨

【現代社会学科】

現代社会学科では、学習成果達成目標を締めくくる項目として、「専門的知識とそれを背景とした調査力・実践力・表現力を備え」ることが掲げられている。ここにいう「専門的知識とそれを背景とした調査力・実践力・表現力」とは、卒業後の各種職業上で、あるいは広く人生上で直面する諸課題に対して、自らが率先して調べ、実践することによって、課題に向き合い解決していく場面を想定している。本学科学士課程では、こうした現代社会における問題解決の担い手を養成するための学問上の基礎として、自身が生きる社会がどのようなものであるかを自発的に学び取り、理解できる学問である社会学を根本に据えている。つまり、社会学を基本としたうえで、現代社会に関する多様な学びを、社会学、コミュニティ学、社会福祉学、国際文化の4つの分野を設定することにより、現代社会における諸問題を専門的に解決できるような能力を育成することが目指されているわけである。上記の達成目標において、現代社会の知識を糧として正しく諸課題に向き合う能力は、さらに近未来の社会を構想することにも密接につながっている。本学科が教職課程を設ける趣旨はまさにこの点にあり、自らが修得し継承する現代社会を理解し、社会を構想する力を、さらに次代へ継承するという崇高な使命を果たすのに最もふさわしい場の1つが中等教育の現場であるがゆえに、下記の教職課程の開設を必要とするものである。

《中学校教諭一種免許状：社会の設置趣旨》

本学科における教職課程は、中学校社会科の教科に関する専門的事項として根拠とすべき諸学問（免許法施行規則に定める科目区分）のうち、日本史及び外国史・社会学・哲学の全科目、地理学（地誌を含む）、政治学の多数科目を学士課程学科専門科目における該当科目をもっておこない、中学校社会科教育が担う多岐に及ぶ諸学問分野のうち、とくに社会学・政治学・哲学・歴史学に関して専門的学識を備えた教員を養成するものである。一方、学士課程においては、社会学、政治学、歴史学、地理学、哲学、心理学について一般的包括的な知識を習得したのち、これら社会科学全般を支える方法としての社会調査を理論から実践まで包括的に学ぶ。あわせて、以上の本学科の基礎・基幹的分野に隣接するところの、政治学・哲学・自然地理学・地誌等につ

いても一般的・包括的な知識を習得していく。また、本学科の基礎的・基幹的分野である社会学については、多数の専門科目を通じて先端的な研究成果を学ぶ。

教職課程においては、教科に関する専門的事項の法令に定められた各分野について、余すところなく一般的・包括的に学ぶことを必須としつつ、学士課程における選択必修科目である社会調査に関する諸科目及び隣接諸学の科目、各種の専門科目と連関させることによって、一般的・包括的な学びの論理的・資料的根拠や研究の先端的トピックについても、常にその存在を意識し、レビューすることを怠らない姿勢を身につけるものとする。

平成 29 年に告示された中学校学習指導要領解説のうち、「社会科改訂の趣旨」で掲げられている以下の 3 項目すべてに、本学科教職課程は対応するものである。

最初に、「社会科改訂の趣旨」の第 1 項では、ア)「基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得」が掲げられている。学習指導要領が目標とする「社会に開かれた教育課程」を実現すべく、社会とのつながりを意識した「生きる力」を育成するために、「キャリア構想レクチャー」をはじめとするキャリア科目と関連をもちながら、「社会学入門」、「現代社会学」、「社会調査入門」という豊富な入門科目の修得を行う本学科学士課程は、この趣旨に沿った教員養成が期待できる。

次に、同第 2 項では、イ)「社会的な見方・考え方を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成」が掲げられている。本学科学士課程では、前掲の通り、「専門的知識とそれを背景とした調査力・実践力・表現力」を備えるものであり、社会の現場に出て、調べ、報告する能力を「社会調査実習」、「社会構想学」、「キャリア構想ケーススタディ」などの科目によって育成しようとするものである。このように本学科学士課程では、学部固有科目による専門的知識の修得を土台にして、「観察・実験や社会見学のレポートにおいて、視点を明確にして、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する」などの具体的な中学校での学習活動例に対応した教員養成を行うことが期待できる。

さらに、「社会科改訂の趣旨」第 3 項では、ウ)「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が説明されている。他方、社会に対するマクロな視点（鳥の目）とミクロな視点（虫の目）の両者の視点を併せ持った社会学を基礎・基幹としている本学科学士課程では、地域社会、コミュニティと連携した社会参画活動を重視する専門科目を多数設置しており、上述の「持続可能な社会づくりに向かう社会参画」の実現を担う教員養成が期待できる。また、本学科学士課程は学習成果達成目標の一つとして、「コミュニティが抱える課題を科学的に捉え、解決」することと「問題解決のための新しい社会の仕組みの構想・デザイン」が掲げられている。そのため、卒業後は、それぞれが活躍する地域において、伝統や文化、宗教を尊重しながら、地域貢献を行うことにより、地域住民に貢献していくことが期待できる。これは、上述の「よりよい社会」のあり方を学習者とともに追究する中学校教員の資質形成にも共通し、本学科教職課程における教員養成と同じ方向を向きながら強く支えるところである。

以上のように、中学校社会科の全分野を網羅する本学科教職課程は、学習指導要領の定める社会科教育の趣旨ならびにその方向にまさしく対応するものである。

《高等学校教諭一種免許状：公民の設置趣旨》

本学科における教職課程は、高等学校公民科の教科に関する専門的事項として根拠とすべき諸学問（免許法施行規則に定める科目区分）のうち、社会学・哲学、心理学の全科目、政治学の多数科目を学士課程学科専門科目における該当科目をもって行い、高等学校公民科教育が担う多岐に及ぶ諸学問分野をほぼ網羅しうる専門的学識を備えた高等学校教員を養成するものである。一方、学士課程においては、社会学、政治学、歴史学、地理学、哲学、心理学について一般的・包括的な知識を習得したのち、これら社会科学全般を支える方法としての社会調査を理論から実践まで含めて包括的に学ぶ。あわせて、以上の本学科の基礎的・基幹的分野に隣接するところの、政治学・哲学等についても一般的・包括的な知識を習得していく。また、本学科の基礎的・基幹的分野である社会学については、多数の専門科目を通じて先端的な研究成果を学ぶ。

教職課程においては、教科に関する専門的事項の法令に定められた各分野について、余すところなく一般的・包括的に学ぶことを必須としつつ、学士課程における選択必修科目である社会調査に関する諸科目、及び隣接諸学の科目・各種の専門科目と関連させることによって、一般的・包括的な学びの論理的・資料的根拠や研究の先端的トピックについても、常にその存在を意識し、レビューすることを怠らない姿勢を身につけるものとする。

平成30年に改訂された高等学校学習指導要領では、公民科全体の目標として「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す」ことが目標として掲げられている。これは、まさしく本学科学士課程において、「現代社会における〈社会・文化・人間〉の諸相を探求するために」教育と研究に取り組むことに合致しており、「現代社会の構造を理解し、めざすべき社会を構想する人材を養成する」ことと対応するものである。

また、個別にみると、公民科公民においては、「現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力」を養うことが掲げられている。社会学を基幹学問分野として、専門的知識と技能を修得する本学科学士課程には、このような学習指導要領の趣旨に沿って、「専門的な知識、概念や技能」の教育を実践できる教員の養成が大いに期待できる。

さらに、公民科倫理においては、「自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対

話したりする力を養う」ことが掲げられている。キャリア教育科目を1年から4年までの全学年に配置し、自己と向き合いながら、必修科目「社会構想学」を通じて、社会のなかでいかに生きるかを一人一人に自発的に考えることを促す本学科学士課程では、このような学習指導要領の趣旨に沿って、「他者ともによりよく生きる自己」を育成できる公民科教員の養成が大いに期待できる。

最後に、公民科政治・経済においては、「国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う」ことが掲げられている。本学士課程では、選択必修科目に「グローバル化と労働の社会学」、「社会の哲学」のように、広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせたり、国際関係などについて客観的に理解させたりする科目と、「地域社会学」、「市民の政治学」のように住民の目線に立って現代における政治を理解する科目の両者が学科専門科目に配置されている。あわせて「社会階層と教育の社会学」や「社会学理論」のように社会をマクロな視点に立った科目と「コミュニティ心理学」、「人間関係の心理学」のようなミクロな視点に立った科目を多数配置することで、このような学習指導要領の趣旨に沿って、「合意形成や社会参画に向かう力」を育成できる公民科教員の養成が大いに期待できる。

以上のように、公民科の全分野にわたり専門的学習を行う本学科教職課程は、学習指導要領の定める公民科教育の趣旨ならびにその方向にまさしく対応するものである。